

第2回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時：平成27年2月9日（月）午後3時2分～4時18分
2. 場 所：京成ホテルミラマーレ6階 ローズルーム
3. 出席者：別紙のとおり
4. 議事概要

○司会（金子政策企画課副課長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開催させていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます政策企画課、金子と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿いまして会議の方を進めさせていただきます。

初めに、挨拶でございますけれども、本日は会長の森田知事が公務のため欠席となっております。諸橋副知事から御挨拶をお願いいたします。

○森田会長（代理：諸橋副知事） 副知事の諸橋でございます。本日は第2回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開催いたしましたところ、委員の先生方には大変お忙しい中、またお寒い中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、東京オリンピック・パラリンピックですけれども、あと5年というところまでまいりまして、開催地の東京はもとより各自治体始め、いろいろな機関でいろんな動きがそろそろ目につき始めると、そんな状況になってございます。本県では、先月、オリンピックの事前キャンプの誘致に向けて大きな弾みとなることが期待されます、世界陸上の北京大会のアメリカチームが本県でキャンプをするということが決定をするなど、いくつかこれまでの取り組みが少しずつ実を結び始めていると、そんな状況にございます。

さて、本日はオリンピック・パラリンピックに向けた取り組みをオール千葉体制で進めていくために戦略の素案というものをつくりましたので、先生方に御協議をいただきたいという趣旨でございます。素案の取りまとめに当たりましては、委員の皆様方の所属しておられます大学ですとか、企業さんですとか、あるいは団体でありますとか、いろんな組織のそれぞれ専門的知識をお持ちの皆様のお力もお借りをいたしまして、専門部会委員として参加をいただきました。ちょうど年末年始に当たるお忙しい時期だったんですけれども、皆さん本当に熱心に御議論いただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げる次第でございます。

素案につきましては、本日、御議論をいただきました御意見をもとにしまして、また専門部会でさらなる検討を重ねました上で、今年度末を目途に戦略（案）という形で取りまとめたという事で考えております。

委員の皆様方におかれましては、2020年あるいはその先も見据えた専門的・総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りたくよろしくお願いを申し上げます。（拍手）

○司会（金子政策企画課副課長） ありがとうございます。

続きまして、今回新たに委員の御就任いただきました2名の方々を御紹介させていただきます。

まず初めに、坂戸誠一委員でございます。本日は代理といたしまして、大熊様に御出席いただいております。よろしくお願いいたします。

○坂戸委員（代理：大熊常務理事） 大熊でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会（金子政策企画課副課長） 続きまして、渡辺淳一委員でございます。渡辺委員には魅力ある観光地づくりと外国人受入体制の専門部会の部会長をお務めいただいておりますが、本日は所用により御欠席なさっております。

それでは、報道の皆様におかれましては、カメラ撮影の方はここまでとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。これからの進行につきましては、石井議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○石井議長 石井でございます。皆さん、御苦労さまでございます。座ったまま議事を進めさせていただきます。

最初に、議題1でございますけれども、専門部会の設置について、及び議題2も一緒に行っていただきます。（仮称）2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（素案）につきまして、一括して協議をしたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

○今泉政策企画課長 事務局の政策企画課長の今泉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

失礼して、着席にて説明させていただきます。

それでは、まずお手元に配付の資料に沿って御説明いたしますが、まず議題1、専門部会の設置についてでございます。資料1の専門部会の構成団体一覧をご覧いただきたいと思います。

横長の資料になります。よろしいでしょうか。

昨年11月の第1回の会議におきまして、基本方針の5つの取り組みの方向性に基づき、9つの分野別に専門部会を立ち上げることについて御了承をいただきました。それを踏まえまして、9つの専門部会を設置いたしました。この表形式になっておりますが、(1)から(9)までございます。この専門部会を設置いたしました。

各専門部会の構成団体につきましては、事務局において、各分野に関係の深い企業様、団体様、大学様などを選定いたしまして、各団体から実務担当者を御推薦いただきました。各専門部会では、12月下旬から1月にかけて2回または1回会議を開催いたしまして、このたびの戦略の素案について検討を進めてまいりました。各部会の皆様には、お忙しい中お時間を割いて御議論いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、専門部会につきましては、部会の設置数や構成団体を含め、状況に応じて柔軟に対応することとしているところですが、当面はここにご覧のとおり、この構成で戦略策定に向けた議論を行ってまいりたいと考えております。

引き続きまして、議題2、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略の素案について御説明いたします。

初めに資料2-1をご覧くださいと思います。資料2-1は(仮称)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略(素案)の概要というA4、1枚のペーパーになってございます。こちらの方をご覧くださいと思います。よろしいでしょうか。

先ほど御説明いたしました9つの専門部会ごとに戦略1から戦略9までの素案を作成いたしました。ここでは、それぞれの戦略のテーマと主な取組の項目を丸印で示しております。戦略1から9まで、これから御説明いたしますけれども、共通する構成といたしましては、昨年策定いたしました基本方針の中で示した取組の方向性を踏まえつつ、2020年に向けて、またさらにその先を見据えて目標を示した上で、企業・団体・行政などそれぞれの主体が取り組む事項を記載しております。

なお、この戦略は今年度中を一つの区切りとして取りまとめることとしておりますが、2020年までの長期間にわたる取組であることから、固定的に捉えることなく随時見直しを行い、具体化できる取り組みはどんどん戦略の方に盛り込んでいきたいと、また充実を図ってまいりたいという風に考えております。

素案の具体的な内容につきましては、資料2-2(仮称)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略(素案)という冊子になっておりますけれども、この冊子により

まして素案の取りまとめを行った各専門部会より御報告いたします。

それでは、順次、説明をいたします。

○内田政策企画課副課長 失礼いたします。政策企画課副課長の内田と申します。私から政策企画課で担当しております専門部会で作成いたしました6つの戦略のうち、まず戦略の1から4につきまして一括で御説明をさせていただきます。

まず、資料2-2の1ページ目をご覧ください。戦略1、キャンプ・国際大会・MICE誘致は、キャンプや国際大会の誘致による地域のイメージアップや交流人口の増加による地域の活性化を目標としております。

主な取り組みの1つ目といたしまして、ページ中ほどの丸印、事前キャンプの誘致でございます。ここでは、キャンプに関する情報のパッケージ化や競技施設の整備、キャンプ誘致に向けたプロモーションの実施、さらにパラリンピックキャンプ誘致に向けたモデルキャンプの実施などを掲げております。なお、各取組の後ろの括弧内は主な実施主体を掲げてございます。

2つ目は、少し飛びまして3ページ目の国際大会等の誘致でございます。ここでは、世界規模の国際大会やスポーツイベントの誘致に向けた取り組みを掲げてございます。

3つ目は、同じく3ページの誘致に関する情報の一元化でございます。ここでは、オリンピック・パラリンピック後も見据え、スポーツイベントや合宿の誘致、さらにスポーツツーリズムに対応するため、スポーツコンシェルジュによる情報提供などを行うこととしております。

4つ目は、同じく3ページのMICEの誘致でございます。オリンピック・パラリンピック関連だけでなく国内外の会議、学会等の誘致の推進、アフターコンベンションの魅力向上などに取り組んでまいります。

次に、5ページをご覧くださいと思います。戦略2、競技力の向上・スポーツの普及は、オリンピック・パラリンピックに千葉県選手を輩出することや、パラリンピック競技や障害者スポーツの普及、さらにスポーツツーリズムによる地域の活性化を目標としております。

主な取り組みの1つ目は、2020年に向けた競技力の向上でございます。ここでは、オリンピック出場を目指すジュニア世代の競技力強化とパラリンピックアスリートの発掘・強化、さらにオリンピック選手とパラリンピック選手の一体となった強化などに取り組んでまいります。

2つ目は、6ページ目、パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・振興でございます。ここでは、障害者スポーツ選手との交流及び共同学習や地域のスポーツ施設の活用や施設のバリアフリー化等による障害者スポーツ環境の充実などを掲げております。

3つ目は、7ページ目の県民のスポーツ振興や健康づくり機運の醸成でございます。ここで

は、子供たちのスポーツへの関心を高めるための取り組みやスポーツを支える人づくりの推進、競技施設の整備などスポーツ環境の整備、さらにスポーツツーリズムの推進等を通じた地域の活力づくりなどを掲げております。

続きまして、9ページをご覧くださいと思います。戦略3、成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化は、成田空港のグローバルハブ空港としての機能強化や選手、観客がストレスを感じることなく県内外へ移動できることを目標としております。

主な取り組みの1つ目は、成田空港のネットワークの強化・充実でございます。ここでは、国際線やLCCネットワークの拡充、成田空港活用協議会の活動を通じた成田空港の利用促進などを掲げております。

2つ目は、10ページ目の、成田空港の利便性及び安全性の向上でございます。ここで1番目の項目、早朝・深夜利用等LCC就航への対応につきましては、事前にこちらからお送りしたものと少し変わっております。ここにつきましては、これまでの対応を踏まえて、さらなる利便性の向上を検討していく、そういう内容とさせていただきます。また、ビジネスジェットの利用促進、ノンストップゲート化の推進などもここで掲げさせていただきます。

3つ目は、同じく10ページ、交通ネットワークの強化・充実でございます。ここでは、圏央道を初めとする空港アクセスの強化や鉄道・バス・タクシー等の空港アクセスの充実、県内の観光地や事前キャンプ地を結ぶ交通ネットワークの強化、さらにオリンピックレーンの設置などに取り組んでまいります。

続きまして、13ページをご覧くださいと思います。戦略4、バリアフリー化の促進は、利用者の視点に立ったハード面、人材の育成などソフト面、さらに心のバリアフリーを進めることで誰もが観戦や観光を楽しめる地域づくりを進めることを目標としております。

主な取組の1つ目は、ハード面でのバリアフリー化でございます。ここでは、利用客の多い空港、駅、車両などの交通機関や事前キャンプ関係施設、さらに歩行空間のバリアフリー化などを掲げております。

2つ目は、15ページ目、ソフト面でのバリアフリー化でございます。ここでは、交通機関や宿泊施設等における人材の育成や翻訳アプリなどICTの活用、ボランティアの養成、対応力の向上、さらにバリアフリーマップの普及促進などを掲げております。

3つ目は、同じく15ページの心のバリアフリーの推進でございます。ここでは、共生社会の実現に向けた意識醸成のための広報・啓発や学校教育を通じて心のバリアフリー化を推進することとしております。

戦略1から4までの御説明は以上でございます。

○富塚観光企画課長 観光企画課でございます。戦略5、魅力ある観光地づくり、及び戦略6、外国人観光客受け入れにつきまして観光企画課から説明させていただきます。

17ページ、戦略5、魅力ある観光地づくりについてでございます。千葉県は、17ページ目標の冒頭に記載しましたとおり、首都圏に位置し、多彩な観光資源を有することから毎年多くの観光客の方々が訪れてくださいます。参考までに一昨年、平成25年の数字ですが、1年間で延べ約1億6,600万人の観光客の方々が千葉県を訪れ、この数字は統計を開始して以来、過去最高の数字を記録いたしました。2020年に向けて、さらに多くの方々を千葉県にお招きするために選ばれる観光地として、さらに一步ステップアップを図りたい、そのような気持ちからこの戦略5を取りまとめたところでございます。

主な取組といたしましては、大きく3つのステージ、3つの視点から整理をいたしました。

1つ目は17ページ真ん中にごございます丸印の太字の、観光客の安全・安心の確保でございます。防犯・防災対策は県政の最重要施策の一つでございますが、県民の皆様同様、観光客の方々にも災害や犯罪から命を守る、身を守るということを提供することは、目に見えない大切なおもてなしであるという考えから、安全・安心のまちづくりや必要な情報提供を進めていくこととしております。

次に、18ページをご覧ください。18ページ、上から4行目に観光地の受入環境の整備・おもてなし力の向上というのがございます。現在、県では観光地の観光公衆トイレの整備・美化について力を入れておりますが、非常に地道なところではありますが、こうした取組を一層推進し、本県を訪れる方々に気持ちよく観光していただくためのソフト・ハードの取組を進めてまいります。

最後の3つ目の取組といたしましては、19ページに掲げました観光地としての新たな魅力の創出でございます。2020年に向けて、またその後においても本県が観光地として輝き続けていくためには、さまざまな観光資源を一層磨き上げる工夫や新しいニーズを開拓することにより、何度でも訪れていただける観光地づくりを創出することが必要であると考えております。そこで、ここでは観光だけではなく、農業やスポーツなどさまざまな分野との連携により、新たな観光需要の開拓に取り組んでいくこととしております。

以上が戦略の5でございます。

次に、20ページをご覧ください。20ページ、戦略6、外国人受入体制でございます。外国人の方でも日本人の方でも観光客のおもてなしという心は一つなのでございますが、特に外国人

の方々は日本を訪れたときに、言葉の壁や情報収集の不自由さなどを感じることもあるという風に聞いております。そこで、特に外国人の方へのおもてなしを充実したいということで、あえて戦略6として外国人受入体制というところをまとめました。

皆様御存じのとおり、2014年、1,300万人の訪日旅行者の方がいらっしゃったという風なことが国の方でも言われております。2020年に向けて2,000万人の目標ということ、この達成はもはや手の届くところに来ておりますが、成田国際空港を有し、また東京に隣接する千葉県として、外国人の方々にも千葉県の良さを知っていただき、また安心して千葉県内を観光していただくというようなことから、一つといたしましては20ページの中段にございます、外国人観光客の受入環境の整備ということで、外国人から非常に要望の多い公衆無線LAN環境の整備でありますとか、あるいは案内板等の多言語化等のハードの取組とあわせまして、外国人への情報提供の強化等を進めていくこととしております。

最後になりますが、22ページの方で外国人へのおもてなし力向上というのがございます。コミュニケーション力の向上ということで、さまざまな人材育成ですとか観光客の方々に直接触れる事業者の方々だけでなく、地域全体として国際化を図っていく、外国人の方を笑顔でおもてなしできるというような機運を醸成していきたいと、そういうようなことからここに掲げた取組を進めてまいりたいと思います。

戦略5、戦略6につきましては以上でございます。

○内田政策企画課副課長 続きます、再び政策企画課より戦略7及び8につきまして御説明をいたします。

24ページをご覧ください。24ページ、戦略7、危機管理・安全対策は、安全・安心は本県を訪れる人にとって大きなおもてなしの一つであるとの認識に立って、テロ、危機管理対策や治安対策を推進するとともに、安全・安心な本県の姿を国内外にアピールすることとしております。

主な取組の1つ目は、テロ等違法行為の未然防止でございます。ここでは、国際空港や港湾など、いわゆる水際対策、公共交通機関・ライフラインの安全対策、さらにサイバーテロ対策などの推進を掲げております。

2つ目は25ページ、健康危機管理対策でございます。ここでは、感染症対策や食品・生活衛生対策などを掲げてございます。

3つ目は、26ページでございます。まちの安全・安心でございます。ここでは、防犯カメラや移動交番、コンビニ防犯ボックスの整備・拡充、さらに交通安全施設の整備などを進めるこ

ととしております。

次に、27ページをご覧くださいと思います。戦略8、機運の醸成・国際交流の促進でございます。ここでは、大会成功に向けて県民一丸となって協力し機運を盛り上げていくことや、この機会を生かした国際交流、国際理解の促進を通じて国際感覚を磨き、誰もがお互いを理解し支え合う共生社会の実現を目標としております。

主な取組の1つ目は、大会に向けた機運の醸成でございます。ここでは、国際交流イベントやオリンピック・パラリンピックの企画展示、さらに事前キャンプにおける選手との交流を通じ、機運の醸成を図ってまいります。

2つ目は、28ページ、国際交流と国際理解の促進でございます。ここでは、姉妹都市交流などの国際交流を進めるとともに、これからの国際社会の担い手となる青少年の国際理解教育、語学教育の充実を図ることとしております。

3つ目は、同じく28ページ目のボランティア人材の育成でございます。通訳ボランティアや大会を支えるボランティアの養成などを図ることとしております。

戦略7及び8の説明は以上でございます。

○松宗千葉の魅力発信担当課長 千葉の魅力発信部会の部会長を務めております、千葉の魅力発信担当課長の松宗と申します。

戦略9について御説明をさせていただきます。本県の多様な魅力をオール千葉で発信し、国内外の観戦ツアーの造成が本格化する時期に先駆け、まず千葉県イメージアップを図り、そして統一的・重点的なプロモーションを展開することを目的としてございます。

主な取組の1つ目は、全国、世界への幅広い情報発信でございます。ソーシャルメディアの活用などの新たな発信手法の開拓、また国内外のメディアを活用していくためのロケーション誘致の推進などを掲げてございます。

2つ目は、31ページの新たな魅力の発見・磨き上げ・発信でございます。こちらは、世界に通用するテーマ、例えば世界遺産である富士山、こちらの方を東京湾越しの海越しの富士、北斎の富嶽三十六景、神奈川沖の浪裏、あちらの風景が見られるのは実は東京湾越しの千葉県というような、そういうテーマの再発見・磨き上げ、またニューツーリズムの推進など、そういうもので新たな魅力を発掘して発信していこうとするものでございます。

3つ目は32ページ、郷土の歴史や文化の発信でございます。こちらは、内外を問わずリピーターの方々や、特に欧米の方々には独特の文化に非常に興味があるというところでございます。そうした中で、文化遺産、郷土芸能、景観などの本県独特の魅力の掘り起こしなどを掲げて、

それを売り込んでいこうとするものでございます。

4つ目は、オール千葉で多様な魅力を発信でございまして、こちらにつきましては、全県的な組織として、ちばプロモーション協議会、インバウンド促進協議会、成田空港活用協議会など、そういった組織と協力しながらオール千葉でプロモーションを展開して、特にその効果を高めるために知事によるトップセールスも積極的に行うほか、海外との相互交流の拡大を進めていこうとするものでございます。また、草の根の情報発信として、チーバくん大使など個人々人を活用していただいてSNS等で、より口コミ的に情報を発信していこうとするものでございます。

以上でございます。

○石井議長 どうもありがとうございました。

○今泉政策企画課長 議題1、議題2につきまして、事務局の説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○石井議長 お疲れさまでした。

大変多岐にわたる千葉県の戦略素案ということでございます。これにつきまして、御意見とか御質問等ありましたらお出しいただきたいという風に思います。

どうでしょうか、今日から参加いただいた鈴木さん、御発言があるようでございますので、鈴木さん、先、指名していいですか。

○鈴木委員 初めて参加いたします委員の鈴木大地と申します。よろしく願いいたします。

ただいま御説明いただきまして、戦略1から9まで大変さまざまな観点からいろいろ情報が提供されまして、まず情報等を作成いただきましたこと、ありがとうございます。

委員として何が貢献できるかなと考えたときに、戦略1、2、キャンプの誘致、競技力の向上のあたりかなと思っております。私の方からは、先ほども御紹介いただきましたが、資料を提出させていただきました。東京2020事前トレーニングキャンプ誘致に係る取り組みについてという紫色のA4の横の資料でございます。

これは、既に情報がそんなに新しいものではなく、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会のホームページにも、この情報は既に掲載されているかと思いますが、改めまして確認させていただきたいと思っております。資料のキャンプの誘致ということで左側、事前キャンプについて、ガイドについてというところが書いてあります。右側に、どういう施設がキャンプ地としてふさわしいのかといった内容になっております。候補地として手を挙げるには、一応条件があるようです。

一番目としてトレーニング場としての各競技 I F（国際競技連盟）の技術要件に適合している施設になります。ちなみに、I F というのは国際競技連盟のことでありまして、国際陸連だとか国際水連だとか F I F A というのも国際のサッカー連盟のことですが、そうした各 I F の条件に適合していなくてはキャンプ地としてはふさわしくないだろうということが 1 点。それから、もう一つは旅館業法の許可施設が近隣にあるということが条件であります。

そして、一番大きなことは組織委員会がこうしたキャンプ地を全国から募ってあつせんするのかと思っていたんですが、どうやら勝手にそれぞれの自治体が誘致を行っていいということが示されました。恐らく組織委員会としては、全国各地の自治体がそれぞれ外国とコミュニケーションをとり、今後も文化交流なりスポーツ交流なりをしていって欲しい、そういった自立を促しているという風に聞いておりますので、千葉県が千葉県なりに独自のルートで各国や各競技団体、各 N O C と連絡が取れるということであれば大いに進めて行くことになるかと思えます。千葉県の中でもそういったコネクションがあるところは積極的に動かれるといいのではないかと思います。

このキャンプが、例えば県内に誘致できるということになりますと、やはりオリンピックというのは何だかんだいって選手がやはり一番の主役であります。誘致がかないましたら、必ず千葉県内で練習をしている、トレーニングをしているところがメディアを通して伝わっていくわけですし、千葉県の価値向上につながっていくのではないかとということで大変重要なという風に思います。

あと、来年のリオデジャネイロオリンピックで、日本各地のキャンプ候補地の資料をまとめ、世界各国に配布すると聞いておりますので、英語を初めとした外国語で県内の施設を P R できる資料作成をしておく必要があるかと思えます。

大変長くなりましたが、私からは以上でございます。ありがとうございました。

○石井議長 ありがとうございました。

さすがにオリンピックの優勝者の説明で本当に身が入っていましたね。この資料もいい資料をお作りいただきました。ありがとうございました。そのほかにも外国にコネがあるとか、そういう方は鈴木委員の言われたことをぜひ、私ならこれができるというような形でこれから行動していただきたいという風に思います。

そのほかに御質問、御意見あればどんどんお出しいただきたいと思えます。どうぞ。

○増田委員 今、資料 2-2 の御説明を受けましたけれども、感じたことは 5 年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本当に合宿の受け入れにしても、これからモデルとして

キャンプをしていこうということにしても、取り組み方がオリンピックとパラリンピックをバランスよく対等に扱っているなというところがよく見えていまして、千葉といたしましたら国枝さんですとか、バスケットの京谷さんというすばらしい選手が育った場所で、特にパラリンピックに向けての熱意といたしますか、そういうものが感じられて、これはすばらしいなという風に感じました。

それで、こういう取組をする中で今年10月にポートアリーナで世界大会が行われます。車椅子バスケットのアジア・オセアニアチャンピオンシップもありますし、ウィルチェアーラグビーのアジア・オセアニアチャンピオンシップ大会もありますので、私、ここが大事だと思うんです。

一番の選手たちにとってのおもてなしは何になるかって考えますと、やっぱり観客の数なんです。選手にとって観客が多いことほどパフォーマンスを発揮できる力になるということはありませんので、これはもうぜひ千葉のポートアリーナにパラリンピックの大会にたくさんの観客でいっぱいになるような努力を一緒に進めていきたいと思えます。

千葉のアクアラインマラソンの時には、木更津の市内の小学生などが学校の授業の一環として沿道でランナーの皆さんを応援して大変喜ばれました。ランナーも喜びますし、また子供たちにとっても、そういうスポーツを生で見るということは貴重な体験になると思えますので、ぜひこの10月、力を合わせてポートアリーナにたくさんの観客を入れたいと思えます。

以上です。ありがとうございます。

○石井議長 どうもありがとうございました。

ほかに御意見があれば、お出しいただきたいと思えます。

○今泉政策企画課長 今、鈴木先生と増田先生から大変ありがたい御指摘をいただきました。リオに向けては、我々も当然視野に入れておまして、そこでのプロモーションということは今後やっぱり考えていきたいというふうに思えます。単にキャンプを呼ぶということだけでなく、やっぱり千葉全体を売り込んでいくんだと、そのような気持ちでおります。

それから、増田先生の方からはオリンピック・パラリンピック、バランスよく戦略に盛り込んでいただいているということで、ありがとうございます。やはりおっしゃるとおり、おもてなしというのは多くの観客がいることだという風に思っております。今度の車椅子バスケットのAOZの大会ですけれども、これは千葉市と県とで力を合わせてやっていこうということで、千葉市ともよく話し合っておりますので、大会そのものを盛り上げていくように我々も努力していきたいという風に思っております。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。

ほかにどなたかございますか。どうぞ。

○飯沼委員 観光物産協会の飯沼です。

この間、テレビを見ていましたら、サウジアラビアのテレビ局が日本に来て取材をしておりました。東京の下町のおばさんが自分の家の前を掃いているところを盛んにレポートしてありました。この自分の家の前の道を掃くという習慣というのは、漏れ聞くところによると東京オリンピックのときに家の周りをきれいにしようということで政府が呼びかけたという風に聞いております。その習慣が根付いて、そういう風に自分の家の周りだけではなくて隣の家の周りまで掃いていると、これはすばらしいとサウジアラビアの人が言うておりました。

オリンピックは、この前、サッカーの日本と韓国の共同開催でしたけれどもワールドカップが行われました。そのとき感じたんですけれども、オリンピックというのは2週間ぐらいであつという間に終わっちゃうんですね。それよりも、それに向けて何かそういうよりいい習慣とかいいことがやはりその後、日本の習慣として残るようなこと、やはり世界から尊敬されるような、そういうようなことがオリンピックを機会に日本の文化として残るといいなと思います。

そういうことで、ぜひ建物を建てるといったハード面よりもソフトの面を充実していただきたい。私、その一つのキーワードは高齢化と外国人だと思うんです。やはり日本人は島国ですので、外国人と余り触れ合う機会がないんですけれども、これを機会にもっと外国人と触れ合うような文化をつくるとか、それから高齢者の方が、篠原さんがいらっしゃいますけれども、NHKの朝の6時半の体操ですね、こういうのを多くの方がやっていらっしゃいますけれども、こういうのがやはり日本の文化として高齢者がやられることがより豊かな社会をつくるのではないかという風に思いますので、そういうソフト面というのは十分にこのオリンピックを機会に、ぜひ前へ進めていただけたらという風に思います。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。

先ほどいろいろ網羅されているというお話をしましたけれども、まさに千葉県長期計画みたいな感じもしないでもないですね。みんなで頑張らなきゃいけないという思いを強くしました。

それで、今回のポイントは多分、成田空港じゃないかというような感じがするんです。申しわけありませんが、どうぞ。

○夏目委員 ご指名を頂いたので、一言申し上げたいと思います。私ども成田空港も専門部会メンバーに参加し、関係する箇所についてはきちんと取り上げていただき、当方の意見は十分反映されていると思っております。

本日の議論ではちょっと先走ったことを申し上げるかもしれませんが、千葉県の戦略案としては網羅的に非常によくまとまっていると思います。ただ、非常にたくさんの項目があるため、これからこれをどう具体的に現実的に実行していくかという実行段階が非常に大切になると思います。

こう思うと、この戦略全ての中から絶対必要な項目など、ある程度の優先順位や重点項目の絞り込み、そして時期や誰がやるかという主体など明確にしておくべきと思います。

誰がいつ、どのようにこれを実行するのかということまで、そして次の段階の議論かもしれませんが、戦略をいかに実行するか、いかに千葉県の宝を未来に残し、オリンピック以降も千葉県がより輝くためには、優先順位づけや重点項目などの絞り込む作業も必要になるのではないかと私は思います。

それからやはりオリンピック・パラリンピックの大きなポイントは、多くの国からたくさんの外国の方が来られることが大きな事柄だろうと思います。そういう意味で、外国人受入体制というのが非常に大事なと思います。

例えば、外国人を受け入れるに当たっての言葉の問題や案内表示など、いろいろ記載がされておりますが、ここらをきちんとやると同時に、これからのグローバル世界の中で千葉県が生き抜いていくためには、やはり千葉県民がもう少し外国の人とコミュニケーションがとれるような気風を育てていく必要があるのではないかと思うところです。

学校教育で英語教育がこれから非常に大事になると言われています。そういうことも含めて、地域の中でももう少し英語の習慣をつける契機をこのオリンピックを活用していったらいいのではないかなと思います。

もう一つはインターネットを含めたICT技術、特にスマートフォンとかモバイル端末はほとんどの外国の方は持っています。成田空港でも無料Wi-Fiはターミナルの中ならどこでも使用できるようにしています。

今、観光地への無線LAN、無料Wi-Fiの整備が進んでいると思いますが、スマートフォンを含めたモバイル情報端末活用環境をさらに整備していく、観光地だとかもっと大きな視点でそういうモバイル端末やデジタルサイネージを有効活用していく。新聞でも仙台かどこかでデジタルサイネージを使って実験するといったような記事も出ていたと思いますが、そうい

う情報技術、ICTをさらに有効に活用するというのも、少し力を入れたらどうかと、こう思います。

ちょっと取りとめもなくして申しわけありませんが、以上です。

○石井議長 ありがとうございます。大変貴重な意見だと。

どうぞ。東金市長さん、よろしくお願いします。

○志賀委員 基礎自治体の立場でちょっとお話しさせていただきたいと思います。

千葉県には市が37、町村が17、全部で54ございます。それで一つの自治体の取組の例として私ども、このペーパーを今、出させていただいておりますけれども、恐らく各市町村でオリンピックに対して何ができるかという取組をもう始めてきていると。既に手を挙げて決定になったところもありますけれども、そういう状況だと思います。

しかしながら、全ての自治体が単独に対応できるかということ、決してそうではないので、当然、県との連携をしていく中で対応していくということになると思いますが、近隣なり広域なりの自治体同士の連携ということもまた求められることだという風に思っています。そういうのは私ども、これからやっていくことにしたいと思うんですが、要は物理的な移動の中で、やっぱり宿泊地とそれから練習場所、トレーニング場所、全部そこで一つの場所でやれるばかりではないという風に思うので、千葉県の中での放射状の道路というのは、東京に向かう道路というのは比較的整備されておりますが、千葉県の中を横串に通していく部分としては圏央道、これがやっぱり一番大きな位置づけになろうかと思うんですが、それをぜひオリンピックまでに整備をして使えるようにしてほしいと。

そうしますと、千葉県の中での自治体同士の連携もうまくとれるし、また東京のバイパスという位置づけの中で、千葉県の中を右に左に行ける、上に下に行けると、こういうことになろうかと思っておりますので、これはぜひ県の方にもそのことについて、難しさは十分わかりますが、最大の努力をしていただいて横串を通していただく。そして、千葉県の中は幅広くいろんな意味での活用ができる体制をとっていただく、これをぜひ基礎自治体の立場でお願いしたいというふうに思います。

以上です。

○石井議長 どうもありがとうございます。東金市は市長が本部長になって、この問題に対応しているんですね。いろいろ近隣の市町村にそれこそ影響を与えていただければと思いますので、よろしくどうぞお願いします。

それから圏央道の、これはもう千葉県の最大課題だと僕は今まで、副知事、そうですね。12

月に実は予算要望に森田知事と私、行ってまいりました。これは通常は国交大臣に会うんですけども、今回は財務大臣、麻生さんのところに行きましたら、快く金は出すよと言ってくれました。ただしですよ、ただし、用地買収で茨城の方でちょっとひっかかったのがあるんです、ほかの道路で。これが難しいと。だから、千葉県がこれをうまくクリアしてくれれば、お金なんかいつでも出してやると、そういう言い方でした、あの人の言い方ですから。

ですから、これはオリンピックまでに絶対に千葉県としてやらなきゃいけないことだと思っていますので、これは例の圏央道の推進の県民会議に、ここにいる皆さんもみんな入っていただいていますので、さらにこの運動は進めていきたいという風に思います。

それでは、鈴木委員、いいですか。このスポーツ競技力向上・スポーツの普及という項目があるんですけども、これから2020年のオリンピックに例えば千葉県からいい選手を出したいとみんな思っているわけですよ。こういうのを今からやって間に合うのか、どういうふうやっていくのかということをお話いただければと思うんですが。

○鈴木委員　オリンピックも大体28競技ぐらいございまして、パラリンピックは20競技を超えるんでしょうか、様々なスポーツ、競技がございます。例えば我々の水泳で言うと、前は14歳の女の子がオリンピックチャンピオンになったりすることもあるぐらい若い選手も活躍できる種目でもあります。あと5年ありますが、県内にも大変優秀な選手もおりますし、それから東京から高校や大学の進学のとくに千葉県内にある学校に進学するといったような機会を積極的に人財を確保し、育成していくことも重要かと思えます。

それから、あと既存の—自分の大学になってしまうのですが、私どもの大学にそれぞれの競技の部活動があり、指導者がおります。そういったところの施設等を拡充し、援助を行っていきながら、環境を整備していくことが、結果的に県全体のレベルの向上につながっていくのではないかなという風に思っております。

なかなか私立大学に対する助成というのも県の方では難しいかもしれませんが、そういったことができるのであれば、さらに県内全域のレベルの向上とともにさまざまな利点が望めるのではないかなという風に思います。

私どもの大学のスポーツ健康科学部の学部長の島内も来ておりますので、何か一言。

○島内委員　鈴木先生が言いにくいところもあるようですけども、千葉県としていろんなスポーツ種目がある中で、どのような種目を千葉県で人材開発していくかというタレント発掘ということを千葉県にある、特に大学関係で国際武道大学や順天堂大学とかいくつか大学がありますが、考えて頂きたい。それから中高でもそれなりの全国大会、インターハイに行っている

ような高校もございますので、そこら辺の先生方とよく協議されて、千葉県としてはどのようなスポーツ種目で何歳ぐらいからこの人たちを指導していけば2020年のオリンピック・パラリンピックに間に合うかをシミュレーションをしっかりとした上でやっていくことがすごく重要だと思います。

○石井議長 ありがとうございます。今、学校の関係の話が出ましたけれども、瀧本教育長、教育長の立場からいかがでございますか。

○瀧本委員 今のお話の特に競技力向上については、県としてもジュニア強化の大きな事業を立てて、今の段階では少し広目にターゲットを当てて、中央競技団体がきちんと強化するレベルよりはもうちょっと下のところ、国と県の役割分担を考えながら、広いところからだんだんに今の先生のお話にもありましたけれども、少し絞り込みをかけていくようなスキームを持っています。関係者と十分協議しながら千葉県の選手がたくさん出られるように努力をしていきたいと思っております。

関係者の方々の御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、もうちょっと大きな立場、体協の立場から荒川さん、ひとつお願いします。

○荒川委員 千葉県体育協会の荒川でございます。

先ほど鈴木委員さん、そして教育長さんからもお話がありましたが、最近のいわゆるジュニアのアスリートといいますか、トップレベルを目指す選手の養成というのが非常に広範囲というんですか、これはもう皆さん、野球とかサッカーで御存じかと思うんですけれども、自分の出身県、生まれた県から外へ出て強い高校、大学へ行って強くなろうと、そういう動きが非常に強くなっています。これは増田委員さんも御存じだと思うんです。

そういう中で、千葉県のジュニア、特に小中高校生をどう育てていくのか。これは非常に近い問題でいえば、国体で千葉県が何位を獲得できるかということにもなりますし、そこからさらに世界選手権、オリンピックに向けた優秀な選手を育てていこうという、そういう一つの大きなスキームがあるわけです。そういうことから考えると、ここに戦略の2で競技力向上という項目が挙がっていますけれども、本当に千葉県で生まれて千葉県で強くなってオリンピックなり世界選手権で活躍をする。これは典型的な例が鈴木大地さんで、本当の千葉県生まれの選手というのは鈴木さんしかいないんじゃないかと。あとはみんな毎年オリンピックとか世界選手権で知事表彰あるいは県民栄誉賞をもらう選手は何人も出るんですけども、大体ほかの県から来て千葉県の企業に就職して活躍している、あるいは大学に進学して活躍しているという

選手が多いんじゃないか、そんな感じがします。

そういう意味で、これから5年かけて本当の千葉県産の選手がどう育っていくか。これはもう教育委員会もそうですし、体育協会もそうですし、各競技団体、パラリンピックも含めて、県を挙げて取り組んでいく必要があるんじゃないかという風に思います。

○石井議長 ありがとうございます。大変力強いお話でございました。

それでは、オリンピック中、最後の方にやる女子マラソンなんていうのは大会の華ですよ。増田さん、どう、見込みは。

○増田委員 私は鈴木さんとかと比べてメダルもとっていないし途中棄権なので、余り大きなことは言えないのですが、先ほど荒川さんが言われたように、やっぱり受け皿が重要だと思うんです。でも、千葉はほかの地域と比べても、順大や国際武道大学などの大学もあって、それから私の専門の陸上長距離種目は実業団も多いところなんです。だから、しっかりと選手が競技生活を安心してできるような受け皿を確実につくっていくということがメダルにつながっていくと思います。

女子マラソンは華だと言ってくださいましたけれども、千葉県の最近のアスリートには華のある選手も出てきました。例えば長距離選手では原田紋里さんという柏出身、市立船橋高校で頑張っている選手。スター性のあるジュニア選手もいるんですね。ですから、あとは受け皿をしっかりと、他県にとられないように、環境をよくして、強化していくということが必要だと思います。

○石井議長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

どうぞ。

○林千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合常務理事 私、旅館ホテル協会から専門部会委員としてこちらの席に出席させてもらっている林でございます。

私、トライアスロンのオリンピック選手を、シドニー、アテネ、北京、ロンドンと9人稲毛インターナショナルトライアスロンクラブから出しているんです。それはそれなりの環境づくりをしてきたということだと思います。今、上田藍も細田雄一も高校から出て私どもの稲毛インターナショナルトライアスロンクラブに来てトレーニングが始まってオリンピック代表として出ているわけでございますけれども、シドニーのときには、今の監督は稲毛インターナショナルトライアスロンクラブの監督です。彼を一番私はオリンピック代表にしようということから支援を始めたんですけれども、一緒にオリンピック選手を育てることから稲毛インターナショナルトライアスロンクラブをつくったんです。今の彼は全日本の監督もやっておりますので、

その方面の、特に幕張はホテルもありますし、幕張の大会、ワールドカップを2回あそこでやっておりますから、それなりの誘致は十分できると。もう働きかけているからです、それは。

最近、大学でもトライアスロンのチームができておりますし、実業団も幾つかのチームが実業団としてトライアスロンチームをつくるという機運になっておりますので、かなりいい形でトライアスロンの選手は育ててきているなという思いがあります。

シドニーのときには宮崎県の福井英郎、西内、それからアテネは庭田清美、中西真知子、それから北京は上田藍、ロンドン、上田藍と細田雄一がうちのチームから出ているわけでございますけれども、いかに環境づくり、トライアスロンというのは泳いで自転車、マラソンですから、それぞれのコーチが必要ですし、そして自転車の整備ということまで含めて、そういう環境づくりをしてやってきたことが今、千葉県でいい選手が育ったと。小出監督のところがいい選手が集まるように、今、稲毛インターナショナルトライアスロンクラブには強い選手が、若い子たちが集まってきております。リオと次の東京、うちのチームからも何人かまたオリンピック代表選手を育て出場させることができるなという思いがあります。

千葉県は特に海岸線、稲毛海浜公園、検見川公園、幕張公園と約5,500メートルの海岸線を持ったすばらしい公園があるんです。あそこらでも大変魅力があるところですので、あそこあたりを誘致活動に、あの公園をうまく利用してもらえれば、千葉市天台陸上競技場とか、習志野には国際大会までできるプールもありますし、いろいろな形で競技ができることがありますので取り組んでいきたいなど。

それから、私、ソフトボールの方の役員もやっております、ソフトボールも今度、東京からは間違いなく私は野球とソフトボールは復活すると思っておりますので、日本はソフトボール、野球とも強いということもありまして、そんなことも含めて誘致活動にこれからも取り組んでいきたいと思っております。

失礼します。以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、個別の種目の話に入っちゃいましたけれども、最後にこれも優勝するだろうと思いますが、バレーボール、田村さん、何かコメントはありますか。

○田村委員 こんにちは。今ずっと聞いておりまして、いろんなお話を、いいお話も聞かせていただきました。

私、いろんなところを各地、バレーボールで回らせていただいておりますが、本当にスポー

ツにかかわらない子供たちが結構、すごく優秀な子供が多いんです。そういう埋もれた子供たちをどうやってスポーツに引き上げていくかということがちょっと私、今、課題になっているんじゃないかと思っております。

各団体、各競技の協会、それこそ各地に全部いらっしゃると思うんですけども、本当にそういうネットワークを使っているいろんな選手たちを、私はバレーボールですからバレーボールに欲しいかと思えますけれども、そうではなくて本当に、この子、陸上に合うとか、いろんな種目に合う子っているんですね。そういう子供たちをやはり見つけ出すということもすごく大事なことだと思っております。今、青少年スポーツ団体とか、そういう入っている子供たちしかスポーツに関係していないと思って、そういう子供たちばかり見ていて、そうではないんですね。

今、先ほどから鈴木大地さんのところの順天堂大学でも女子アスリートたちが恵まれないということで、バレーボールなんか特に高校からずっと大学に行かないでバレー選手として引張られるということが多いので、バレーをやめた後の自分たちの学力がないということで就職先もないとかということで、そういう意味で、そういう人たちを大学院にまで行っていらっしゃいという受け入れをくださって卒業証書も下さるといことも今、やり始めているんです。

そういった意味でも、いろんな意味でスポーツ選手として悩み、将来どうなんだろうということはみんなそういう悩みを持っているので、そういう受け入れが少しずつできているんですよというところも、やっぱりネットワークとして出しながら選手を発掘していくということがとても大事に思っております。

○石井議長 ありがとうございます。そのとおりだと思います。私も大学のとき、運動をやっていたんですけども、運動だけやっても頭が悪くなるとか成績がだめだということはあり得ないですよ。運動を一生懸命できた人が何をやっても僕は大丈夫だと思うんです。

ですから、いつか会社の採用担当をやったことがあるんですが、特に大学の運動部なんかで選手としてやった人は絶対落としませんでした。4年間やるって大変なことなんですよ。その中でまたオリンピックに行くとか何かって、そんな人たちが育ってきたら素晴らしいことじゃないですか。そんな風に感じています。

そのほかに意見ございますか。できれば皆さんからと思いましたが、これだけ人数がいるととても無理なので、きょうはこのぐらいにしておきますかね。あと分科会等でまたいろいろ御発言をいただければと思いますが、新倉さん、何かありますか。

○新倉副議長 夏目委員の方から御指摘がありましたように、総花的になっているなというのは私自身も感じております。どれも正しい、どれもやってほしいのですが。

千葉県には千葉県が抱える課題があり、これまで千葉はいろいろな資源を有効活用しながら、これらの課題を解決しようと取り組んできていますし、またこれからも新たに取組もうとしていると思うのですが、それらの課題と東京オリンピックの千葉県の課題とがどう結びついているのか、その関係性が素案から余りよく見えてこないんです。千葉県には千葉県の課題がありますが、それらの課題と東京オリ・パラの課題とがリンクしている提案になるといいと思います。

事務局の方をお願いをしたいのは、千葉は何に重点を置き、何を特色とするのかをより明確に基本方針の中に示した素案を提案していただければ有難いです。東京オリンピックの直接の開催都市は東京ですが、この機会を生かした千葉県の重点的かつ優先的に取り組む課題が見えるようにしていくことが重要なのではと思います。

今後、それらの課題を解決していくためにはどんなリソースがあり、どう活用できるのかをもう少し分析をしていかないといけないのかなと感じています。非常にたくさんのリソースを持っている領域ではそこはどんどんと推し進めて。リソースが不十分でも千葉県として重要と考える領域についてはテコ入れするなど方針を決め、それぞれの特色の中で重点化や優先項目を決めていくのだろうと思うんです。

それと、事前のトレーニングですとか国際大会の誘致ですとか、オリ・パラ開催以前にいろいろな方々の御尽力で千葉への誘致が実現しそうになっている大会や合宿などがあると思いますが、具体的に誘致に成功したケースについて、それらをモデルケースとし、誘致が長期的にどういう意味を持つのかを、短い期間ですが検証していく必要があると思うんです。

例えば増田委員がおっしゃったように、観客数が多いことが選手にとっては一番ありがたいことだとおっしゃったんですけれども、じゃ、観客数をふやしていくためにどういう意識改革をしていったらいいのか。子どもたちをそこに関与させる場合でも、どうやって子どものモチベーションを高めていくのか、どのような教育をしていくのか。特にパラリンピックの場合は、そこがとても重要で、パラリンピックに対する意識とか、そこでスポーツを行う選手たちへの理解が本当に醸成されていくのかどうか。一回でぱっといってわっと終わってということでは何もならないので、事前合宿、事前の国際大会などを誘致できる機会に恵まれた場合は、教育も含めて効果を検証していく作業があるといいと思います。

世界にプロモーションしていくというのはとても大切なんですけれども、あちこちでいろいろなプロモーションをやっていると思いますので、いかに千葉が独自性を出せるかというのはものすごく大きな課題かなと思っています。

○石井議長 ありがとうございます。今、副議長から注文が出ましたので、企画部内でちょっと議論していただけていますかね。個別にはいろいろあると思います。だから皆さん、意見を直接、県の総合企画部の方に言っていただけてよろしいかと思っております。

例えば安全対策なんかも僕も言いたいことは結構あるんです。実はちょっと怖い思いをした。二、三日前、インドネシアから帰ってきたばかりなんですけれども、あそこは御存じのように過激派がいるんです。よく帰ってきたなと思って。帰ってきて、それでここへ出たのがちょっと簡単過ぎるかなというような感じもするんです。実際にああいうことが起きたときにはどうなんだろうかと考えてみると、やっぱり個別に、この話だけじゃなくて議論をもっとする必要があるかなと感じましたので、ほかの項目も含めてちょっと議論をしてみてください。お願いいたします。

それでは、きょう皆様から意見を聞いたのはこの辺にしまして、マイクを政策企画課長にお返ししますので、あとはお願いします。

○今泉政策企画課長 たくさんの御意見、ありがとうございます。各専門部会で今後、いただいた御意見を踏まえて、また検討を深めていきたいと思っております。そして、またきょうお示した戦略案をさらに充実したものにしてまいりたいと思っておりますので、今後とも御意見がありましたら、どうぞ私どもの政策企画課あるいはこちらの観光企画課等ございますので、どしどし御意見をいただければと思っております。ありがとうございます。

○石井議長 どうもありがとうございます。

それでは、これは議題3にありますけれども、今後のスケジュールにつきまして御説明をお願いいたします。

○今泉政策企画課長 それでは、今後のスケジュールについて御説明いたします。お配りの資料の3、こちらの方がオリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議のスケジュールとなっております。前回お示したものとほぼ同じものがございますが、本日いただいた御意見を踏まえまして、再度専門部会で検討した後、最終的には3月下旬を目途に戦略を決定したいと考えております。

なお、第3回の会議につきましては、既に3月23日から25日の中で御都合をお伺いしたところですが、日程が決まり次第、改めて通知させていただきますのでよろしくお願ひしたいと思います。また、4月以降につきましては、表の下に記載しておりますように、推進会議については年2回程度、専門部会については推進会議に因る議案を検討するほか、部会の取組状況により随時開催することとしたいと考えております。

説明は以上です。よろしく申し上げます。

○石井議長 ありがとうございました。

それでは、マイクを司会者に返しましょう。

○司会（金子政策企画課副課長） それでは皆様、長時間にわたり貴重な御意見等を賜りましてありがとうございました。

本日、非常に限られた時間ということでございましたので、またさらに今後お気づきの点等ございましたら、私ども事務局までお申し出いただければ幸いに存じます。また、本日の議事内容につきましては、議事録を後日、作成をいたしまして県のホームページ上で公表をさせていただきたいと思っております。その際、内容等につきましては皆様方に別途、御確認いただければという風に考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは本日、これもちまして会議を終了させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。